

第2期教育振興基本計画の策定に向けた基本的な考え方（概要）

0. 第2期計画のコンセプト

教育成果の保障に向け、明確な成果目標の設定と、それを実現するための具体的かつ体系的な方策を明記すること。

I. 我が国の教育をめぐる現状と課題

○ 我が国の教育を取り巻く諸情勢の変化

- ①グローバル化や少子高齢化など社会の急激な変化
- ②我が国が直面する危機
 - ・厳しさを増す経済環境 ・日本型雇用環境の変容 ・少子高齢化による社会活力の低下 ・人間関係の希薄化 ・格差の再生産・固定化
 - ・豊かさの変容 など
- ③課題解決への糸口
 - ・様々な日本の強み：豊かな文化・芸術、優れた感性、高い科学技術、勤勉性、協調性、基礎的な知識技能の平均レベルの高さ など

○ 東日本大震災を受けて

- ①震災の衝撃（我が国が直面する危機の一層の加速化が予想される一方、人の絆の存在を実感）
 - ②震災の教訓
 - ・様々な制約によることなく、すべての子ども・若者が必要な力を安心して身に付けていける環境整備の重要性
 - ・困難に直面しても諦めることなく自ら考え行動する力の重要性 ・つながり（絆）の重要性 ・未来志向の復興・社会づくりの重要性 など
- 我が国全体で教訓を共有し、必要な方策を検討していくことが必要

○ 今後の社会の方向性と教育の在り方

- 多様性を基調として様々な人々や自然と共生する成熟社会に適合した新たなモデルの必要性
- 持続可能で活力のある社会を構築するための「自立、協働、創造」の3つの理念
- 4つの教育行政の方向性（下記イ～ニ）実現に向けた条件整備や、東北発の未来型教育モデルづくり促進とその全国的展開が必要

II. 今後目指すべき教育の姿

○ 現在の教育の評価

- ・学習意欲の増加、低学力層の割合の減少、グローバル化等に対応した教育の質保証、若者の内向き志向の打破、規範意識・社会性・体力等の育成などが課題

→ 教育行政の課題として「個々人の多様な強みを引き出すという視点」「学校段階間や学校・社会生活間の接続」「十分なPDCAサイクル」の不足などが存在

○ 今後の教育政策の遂行に当たって特に留意すべき視点

- ①教育における多様性の尊重、②教育に対する社会全体の「横」の連携・協働、③生涯学習社会の実現に向けた「縦」の接続、④国・地方の連携・協働の重要性

○ 今後の教育行政の方向性

→ 縦割りではなく、各学校段階を貫く横断的視点を設定し、全体構造を整理。

イ 社会を生き抜く力の養成 ～多様で変化の激しい社会での個人の自立と協働～

- ・個人や社会の多様性を尊重しつつ、幅広い知識と柔軟な思考力に基づき、主体的に課題を解決したり、他者とコミュニケーションし、協働したりしていく能力等が必要

→ 必要な知識・能力の確実な修得に向けた条件整備が重要

ロ 未来への飛躍を実現する人材の養成 ～変化や新たな価値を創造・主導し、社会の各分野を牽引していく人材～

- 若い段階で海外に出て外から日本を見る機会の増加、優れた能力と多様な個性を伸ばす環境の醸成、いろいろな異能な人たちの融合を生みやすい環境の構築、多様な背景の若者たちが切磋琢磨する場の構築などが重要

ハ 学びのセーフティネットの構築 ～誰もがアクセスできる多様な学習機会を～

→ 学習へのアクセス機会や、安全安心で質の高い教育環境の整備の確保が重要

ニ 絆づくりと活力あるコミュニティの形成 ～社会が人を育み、人が社会をつくる好循環～

→ 学習を通じた多様なネットワーク・協働体制の確立が重要

III. 今後5年間に実施すべき教育上の方策

PDCAサイクルの実施に向けて、具体的な目標・指標を設定すべく、平成24年より本格的に議論